

大手データセンターエンジニアリング会社が戦略的売却を検討中

会社概要・取引概要

- **業界・業種** 機械・電気工学、データセンター工学、その他
- **説明** 20名近いスタッフを擁する同社は、データセンターの設計とソリューションに焦点を当てた機械・電気サービスのリーディングカンパニーです。その他、設備効率化ソリューション、空調システム、ビル管理システムなどを提供しています。データセンターの設計から建設まで一貫したサービスを提供している。
- **顧客層** 民間企業、データセンター、インフラ投資家など
- **財務の話**。売上高430万シンガポールドル/EBITDA140万シンガポールドル（2021年度最終決算）。

投資ハイライト

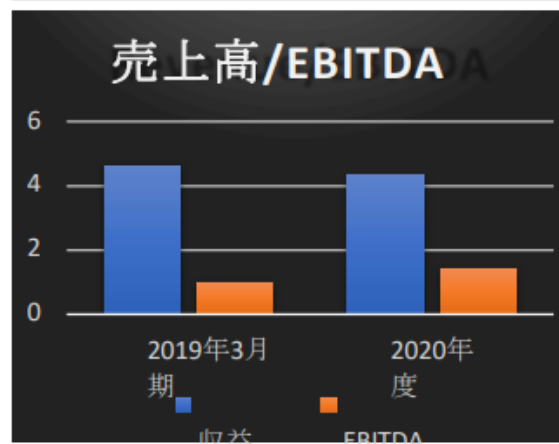
- **データセンターの設計・構築サービス**における専門知識により、当社はこの市場でニッチな地位を築き、データセンタープロジェクトを効率的かつ効果的に完成させる品質と能力の両方において、シンガポールでよく知られています。
- **経常収益** - 収入の約20-30%が保守契約によるもので、堅実な基礎収入をもたらす。
- **有名なテクノロジーパートナー** - エクイニクスやベライゾンなど、グローバルなデータセンター事業者に選ばれているエンジニアです。
- **強力な能力** - 豊富なパートナーとの提携により、データセンター、複雑な施設やビル管理システムを中心とした大規模なエンジニアリング作業を実施し、顧客に助言する経験を有していることも示しています。

市場展望

東南アジアのTier IIIデータセンター市場は、2026年に13億米ドルに達し、年平均成長率8%以上で成長すると予想されています。シンガポール、インドネシア、マレーシア、タイなど7カ国に89を超えるTier III認定施設があります。インドネシアが主要拠点で、約40の認定施設があります。この地域のほとんどの新設データセンターは、最低N+1以上の冗長性を備えたTier III規格に準拠して設計されています。Tier IVデータセンター市場は、2026年までに6億2,000万米ドル超に達すると予想されます。

(出典：Businesswire.com)

財務ハイライト (単位：百万シンガポールドル)



- EBITDAは1Milから1Milに増加
2019年から2020年にかけて\$1.44Mil。当社の財務は、コロナの影響を受けていない。むしろ、このような事態がなければ、当社はさらに成長する見込みである。
- また、シンガポールでの成長以外では、現在の少人数のチームの制約から、もし大きな投資家が現れれば、同じ顧客グループを使って地域的に拡大する機会も多くあります。

免責事項

本資料は、情報提供を目的として案件対象会社・公表資料から得られた情報(「受領情報」)をまとめた参考資料であり、受領情報の監査等裏付調査を行っておりません。よって、クロスボーダーズ株式会社(以下「当社」という。)は、本資料の正統性、完全性、真偽性を保証するものではありません。本資料の内容につきましては、貴社のご判断に基づき、ご活用頂きますようお願いいたします。

また、本資料は投資勧誘のために作成されたものではなく、当社は本資料を提出するに際し、貴社に対して有価証券についての投資勧誘を行うものではありません。株券等の有価証券への投資その他の取引の決定に際しては、貴社における資料等の検討ないしデュー・デリジェンスの結果などを踏まえ、貴社ご自身の責任でご判断頂きますようお願いいたします。

なお、本資料の内容に関する一切の権利につきましては当社に帰属し、本資料の全部又は一部を当社の承諾なしに公表又は第三者に伝達することはできませんので、貴社限りとしてご利用ください。